鉄砲洲神社詩吟　素読論語解説
（平成 28 年 9 月 2 日）

衛霊公 第十五

【二四】子曰く、吾の人に於けるや、誰をか毀り誰をか誉めん。如し誉むる所の者有らば、其れ試みる所有ればなり。斯の民や、三代の以て直道にして行いし所なり。

孔子が、村の人々に対して、誰かを非難をしたり褒めたりということはしない。私が褒める人物がいれば、とっくにその人物は世に出て活躍しているだろう。特にこの村に残っている人達は夏・殷・周の時代から、淡々と村の仕事をして生活してきた真っ直ぐな人達ばかりだから、この村の人達を褒めたり批判したりすることは、ありません。

よくこれは意味がわかりません。学者は色々な解釈をしていますが、ひとつのグループ、ひとつの地域の中で、孔子が人を褒めたり批判したりすることは、あまりしない。その理由は、私が見出すような人間がいれば、とっくに官僚になる試験に合格していなくなっている。ここら辺も話が変なのですが、ただはっきりしていることは夏・殷・周の時代から、その土地に伝わっているものをきちんと継承している。だからここの村人達はよい人達だと。もってまわったような言い方になります。

孔子の考えていた時代の三代良いものが続いたら、その次はずっと良くなるというのは今の時代にはあてはまらないという氣がします。これはちょっと苦しい解釈です。

【二五】子曰く、吾　猶　史の闕文に及べり。馬有る者は人に借して之に乗らしむ。今は亡きかな。

孔子がいうには、歴史を記録する役人が疑わしいと思うものを書いていた場合、私はその字は後世に残さないよう書くことをしない。文字は書かないで空字にしている。言い換えてみたら、自分が馬を持っている人は、馬をお使いなさいと人に貸す。他人に対して親切にする人が昔はけっこういたけれど、今はこういう人情が薄くなったと。小さい出来事だけれど、今は時代が変わり、人情が薄くなったということをいっている。

素晴らしい記録があって、よく読んでみたら、おかしな文章があったり、あきらかな間違いがあったりしても言い立てないで、そっと空字にして本人がハッと氣がついて埋めるような、そういう親切心が今はなくなった。おかしいと思ったら、おかしいと言い立てる時代になったのは、ちょっと困ったものだというような意味です。

今の時代、人がミスをしたら指摘しますし、またお金や何かを貸して欲しい時、どうしても貸さなくなってきている。人情が薄くなっているものは、現在はさらに酷くなってい

て、さらに心が荒んできている時代になってきたと感じます。

ここら辺は学者も意味不可解という説明ばかりです。何かもってまわったような文章なので苦しい。今の時代、孔子の時代も人情が薄くなったと孔子がいっていると捉えて、現在はさらに酷くなっていると捉えればよろしいかと思います。

余分な話ですが、この間太田市内で、250 人ぐらいお集まりをいただいて中斎塾フォーラムの講演をしました。その時に、木内孝さんがロンドンから来た女性記者を紹介していました。30 歳そこそこの若い日本人でした。その方が最近頼まれものはホセ・ムヒカさんの独占インタビューでして、日本人の心にグサッと突き刺さるような良い言葉を引っ張り出すインタビューをしてくれということでした。どうインタビューをすればよいか迷っている。何か良い知恵ありませんかと聞かれましたので、ホセ・ムヒカさんは 13 年間牢獄に入って発狂しかけた。その発狂しかけたとき、目の前に蟻が歩いているのを見て、蟻に話しかけ自分の氣持ちを落ち着かせる努力をし、発狂しないで済んだという文章を読みました。「獄中にあって蟻と出合った時は、どういう感覚でしたかとお聞きしたらどうですか」と言いましたら、「どうしてですか」と聞かれたので、ムヒカさんと同じような体験をしている人は日本にはたくさんいます。例えば黒田官兵衛は獄中に入ってくる蔦の緑を見て生きる希望をもった。西郷隆盛は断崖絶壁の牢獄に囚われて、ろくに食べない。茶碗に少量のご飯のうえに白湯をかけて、ひとつまみの塩をかけてもらったものを 2 ヶ月間ぐらい食べて飢え死にしかけた。それをくぐり抜けて本土に戻って明治維新を達成する。西郷隆盛の生きる希望は、柳行李に入れた本と向き合うことによって生きる希望を見出していったと、日本にはたくさん似たような話があります。ムヒカさんと同じような体験をした日本人を調べて研究をされるのが良いのではと思ったので、蟻をどう捉えたかを聞いたらいかかがですかと言いました。その女性はびっくりしていました。その人はアフリカ育ちなので日本のことはあまりよくわからなかった。西洋の人達はあまりそういう発想はしません。蟻を見て蟻に話しかけることは、本当に発狂しかけたという捉え方をする。蟻の説明をした本もそういう説明であったのを私は読みました。深澤さんのような説明はどこにも書いてありません。西洋人からみる蟻とはそういうものなので、東洋の人はそう見るのですかと。日本の人はそう見ますからムヒカさんにそう伝えなさいと言いました。一所懸命メモを取って、やってみますということでした。

日本人にとってはごく当たり前の出来事が、外国の人から見ると何だか日本人は変わっているね、すごいねということがあるので、それを我々はしっかり受け止めて活かせば良いなと思いました。

今日の論語のお話は、何度も申し上げていますが、中国の人達の考えている言葉だから、たまには日本人に合わない言葉もあるということです。